

公務員専門学校で講義を実施



研究成果を発表する横浜商科大の学生



学生たちの発表後、講評を述べる細田募集課長

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 山野 太資 1等海佐）は、2月28日（水）、29年度から横浜商科大学商学部と実施している「自衛官の効果的募集」についての共同研究の最終発表会に募集課長以下、部員が参加した。7月に実施された第1回中間発表「就職先としての自衛隊」に続き、今回が2回目。

同研究は、柳田義継ゼミの学生が募集対象者の視点からマーケティング技法を用いて自衛隊の募集活動を評価し、より効果的に実施するための資を得るもの。最終発表会は、学生5名のグループが「自衛隊を志願するまでに必要な情報と発信」についての研究成果を発表した。

学生グループは、企業のHPや採用情報、就職先を選ぶ際に重要となる点や行動パターンの分析をはじめ、WEBにより発信されている自衛隊の募集広報をマーケティングの面から整理・評価し、改善案を述べた。

学生たちからは「簡単に手に入る情報は、活用しづらい。募集種目は、対象者別に入口を分けるべき」「将来どのような人材になるのかわからない目標がみえない。やりがいを持つための判断基準になるので、イメージできるようにする必要がある」といった具体的な意見が出された。

発表を聞いた細田募集課長は「採用情報以前に、一緒に働く人や採用後のキャリアをアピールすることが若者への募集広報効果が期待できることが分かった」と話し、担当者は「今回の発表内容を反映し、募集成果への影響を分析していく。神奈川地本としてより効果のある募集広報の方法を練っていききたい」と語っていた。

神奈川地本は「今後も学生たちの意見を取り入れ、より有効なPR方法を実施していきたい」としている。

大学生の募集解禁にともない大学内「合同企業セミナー」で自衛官募集をPR

カレッジリクルーターとともに
学生に説明する広報官

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原 陸尉）は、3月1日横浜市立大学（横浜市金沢区）で開催された「合同企業セミナー」において募集ブースを設置し、大学生らに職業としての自衛官をPRした。

会場では、約200社を超える企業がブースを設置し、訪れた大学生らに自社の魅力をアピールしていた。

募集ブースでは、カレッジリクルーターである海自厚木基地第3航空隊の戦術航空士後藤 尉から、入隊後の幹部自衛官のキャリアや海外での活躍、そして学生として日本の防衛について広く勉強する機会があることなどを紹介した。学生は、自衛隊における活躍の場の多さに驚くとともに「採用試験科目」や「後方職種」について広報官に熱心に質問するなど、就職先として自衛隊に興味津々の様子だった。

上大岡募集案内所は「今後も大学生に対し、幹部自衛官の魅力をアピールし、優秀な人材の確保に努めていきたい」としている。

募集相談員会・家族会共催「入隊入校予定者激励会」を実施



入隊入校予定者を紹介する所長



謝辞を述べる入隊入校予定者代表

神奈川地方協力本部上大岡募集案内所（所長 平原 陸尉）は、3月3日（土）、横浜上大岡募集相談員会と横浜南地区自衛隊家族会が共催する「入隊入校予定者激励会」を支援した。

本激励会は、横浜地区4個事務所合同で実施され、上大岡募集事務所を通じて入隊入校予定の高中生や社会人、その家族ら約60名も招待され、横浜市副市長、相談員会会長、家族会会長らが列席し、祝辞を述べるなど入隊入校予定者を激励した。

その後実施された懇談では、入隊入校予定者とその家族、広報官も加わり隊内生活や入隊への期待などについて話し、大いに盛り上がり続けた。

最後に入隊入校予定者を代表して陸上自衛隊久留米幹部候補生学校に入校予定の大学生は「地域をあげての激励とこれまで導いてくれた広報官に感謝するとともに、一日も早く自衛隊の環境に慣れ、立派な幹部自衛官になって国防や災害派遣活動に貢献したい」と力強く話し、会場は大きな激励の拍手で沸いた。

上大岡募集案内所は「今後も入隊入校予定者の入隊意欲向上とご家族も含めた不安の解消に努め、入隊入校へ導いていきたい」としている。